

『オナサポメイド ～丁寧にされたり^{さげす}蔑^{さげす}まれたりしながら、シコシコ音
声で発射したいご主人様へ～』 Bパート

CV 山田じえみ子

企画・台本 オナサポ総合研究所

【あらすじ】妹メイドがお休み前のご主人様のために朗読します。

[妹メイド]：

こんばんわ、ご主人様。^{いもうと}妹メイドです。

お休み前の朗読に参りました。

はい、今夜は^{わたし}私^{いた}がおつとめ致します。

この朗読オナニーに関しては^{まった}全^まくのフリースタイルですから、シ
コシコされてもされなくても、道具を使われても使われなくても構^{かま}
いません。

^{ひごろ}日頃お姉様より、ご主人様は「お早いくせにイジられ好きで、救い
ようのない^おM男」…との指導を受けておりますので、それに即^{そく}した
ものを用意しました。

^{そうろう}早漏にピッタリな、「^エ^コE c o朗読」を心がけて参ります。

よろしいですか？

朗読スタイルは、^{いちにんしょうぼくしてん}一人称僕視点です。

では^{さっそく}早速…。

[僕]：

『僕は妹に管理されている』

毎晩妹が僕の部屋にやってくる。

僕を^{もてあそ} 弄^も び、おもちゃにするためだ。

妹の言葉をそのまま借りれば、「愛玩^{あいがん}」だそうだ…。

なかなか信じてもらえない。兄である僕が逆らえなくなってしまう理由…。それは彼女に生まれつき不思議な力が^{そな}備わっているからだ。目を見て言葉を聞いただけで、手足が自然に^{あやつ}操られ、いつの間にか心まで支配されてしまう…。

誰にも抵抗することができない、必ずそうなる。とても恐ろしい力だ。

そろそろ板張りの廊下から、あの細い足音が聞こえてくる…。

ほら、やって来た。

それはまさに僕にとって、苦悩と快樂のはざまに突き落とされる間^ま際の…服^{ぎわ} 従^{ふくじゅう} の合図のように響いていた。

[妹]：

お兄様、下着は穿^はいて頂けましたか？ 昨晚^{さくばん} 私^{わたし} が用意したヨレヨレの下着です。

[僕]：

当然僕は穿^はいていた。

そして毎晩この時刻になると、僕の体^{からだ} は下着姿でベッドに仰向け^{あおむ} になったきり、身動きが取れなくなってしまうのだ。

[妹]：

ふふ、お似合いですよ？ では、穿^はいているパンツの左側から、お兄様のアレを、ハミちんさせてください？

そうです、お上手ですね…？

まるでどこかで経験されたことのあるような手際^{てぎわ}です。

そうなんですか？ お兄様。

よもや私以外の誰かに愛玩^{あいがん}されているわけではないと、信じていたが…。

たとえ夢の中の出来事であったとしても、許すことはできません。

今夜はお仕置き確定ですね？ ふふふ。

[僕]：

一瞬だけ、妹の眼差し^{まなざし}が冷たいように感じた…。いや、表情にこれといった変化はない。いつも通りだ。

[妹]：

お兄様？ 脚^{あし}をお開き^{ひら}になってください？
ご自身の意思^{いし}で。

[僕]：

その言葉で、思わず脚^{あし}がM字^{ひら}に開いてしまう。
僕の脳が命令を下^{くだ}しているのではない…あるいはそうかもしれない。
イエスかノーか、考えることさえ無意味だ。

必ず従ってしまうのだから…。

妹の白く細い手が、僕の無防備な睾丸^{こうがん}に伸びていく。

自重^{じじゅう}でだらりと下がった二つの楕円^{だえん}の肉玉^{にくだま}を、小さな手の平^{うへ}の上に持ち上げ^あ、いつもと変わらぬクネクネとした指の動きで、器用に
転がしている。

ぬるりぬるりと擦れあう肉玉^{にくだま}が、互い違い^{たが}に上下^{ちが}にはじかれあって、
妹の手遊び^{てあそ}にされている背徳感^{はいとくかん}さえ…心地^{ここち}いい。

下半身の欲動^{よくどう}は動物の本能にまかせて、ムクムクと隆起^{りゅうき}するむきだしの塊^{かたまり}に変わっていく…。

妹は僕を愛玩^{あいがん}している。だからペットである僕を痛めつけたり、お仕置きすることなどあり得ないのだ。

[妹]：

〈右の耳元へ 無声音の台詞です〉

そうお思いになりますよね？ お兄様。

んっ…。

〈グジュ…〉

[僕]：

突然に加えられた強い握力に、辜丸^{こうがん}が悲鳴をあげた。

ずいぶん以前から僕の口は封じられていて、声を出すことができない。

[妹]：

ふふっ…。

〈グジュジュ…〉

[僕]：

ジリジリと握りつぶされていく辜丸^{こうがん}が、もとの楕円^{だえん}の形^{かたち}より、いっそう歪^{いびつ}に変形させられる様^{さま}など、か弱^{よわ}い玉^{たま}の持ち主^{もぬし}であれば、誰だって想像したくはないはずだ。

[妹]：

愛玩^{あいがん}の方針を変えたのですよ？ お兄様。

いつまでも妹に甘やかされてばかりでは…兄として恥ずかしいですよ？

だからこうです。んっ…。

〈ギュルル…〉

[僕]：

それは今まで僕が経験したことのない、妙な痛みだった。

妹の手首がクルリとひねられると、さっきまでそこにあった右の玉

と左の玉が、反対側を向き…入れ替わっていることに気づいた。

袋の根元^{ねもと}から回されている…。

まるでいらなくなった古びた人形の首をねじ切るように。

これはだめだ…僕の^{こうがん}睾丸からつながる^{ゆ せいかん}輸精管までちぎれてしまう。

一気に血の気が引いていくのを感じた…。

[妹]：

ほら、回された金玉がぐる～っと一回転して、もとの位置まで戻ってきました。

良かったですね？ お兄様。んっふふ。

私以外の誰かに^{あいがん}愛玩されたとしても、こんなふうには^{かま}構ってもらえませんか？

ご自身の手で、反省のシコシコをしてください？

お出来になりますよね？ さあ。

[僕]：

妹に言われるがまま、右手が勝手に僕の^{よくどう}欲動の^{しょうちょう}象徴を…ペニスをつかんだ。

もうすっかり^{ちぢ}縮こまっている。

こうがん 辜丸を握りつぶされ、いんのう 陰囊ごとねじり回され…それでもいきり勃っ
た
ている男がいたなら、それは真性のMだ。
えむ

〈シコシコ音が入ります〉

しなだれたペニスを上下に絞^{しば}り上げてゆく…。

こんなに間近^{まぢか}に見られていても、もう右手は止められない…。

[妹]：

すべ 滑りは足りていらっしゃいますか？ お兄様。

ぷっ、ぷっ、ぷっ！

これでカウパーが出るまではもつと思います。早く元気になってくだ
さいね？

[僕]：

いつもはもっと丁寧^{きゆういん}に、あの柔らかなピンクの唇に、僕のペニスを
吸^{ふく}引^{した}し、唾液^{みぞ}を含ませた舌を裏スジやカリ首の溝^{みぞ}にからみつかせ、
のど 喉の奥までじゅぼじゅぼと濡れそぼつまで、豊潤^{ほうじゅん}な「ぬめり気^け」
をくれる妹が…僕をぞんざい^{あつか}に扱^{あつか}い始めている。

古びた人形になってしまったのか。飽きられてしまったのか。

ぎやくたい 虐待^{ぎやくたい}の続く下半身の痛み^{ぎやくたい}に耐えかねながら、僕はそれでも…捨て
られたくはない。

妹の期待^{こた}に応えなければ…。

〈シコシコ音・チェンジ〉

[妹]：

ふふっ、そうですよ？ お兄様。

私を楽しませてくれたら、ペットとして、これからも愛玩^{あいがん}してさしあげますね？

[僕]：

はあ…はあ…はあ…はあ…。

蔑^{さげす}んだ眼差^{まなざ}しで見下ろす妹^みの…半分^みに閉じられた^{まぶた} 瞼^{まぶた}の角度まで…

はあ…はあ…美しく感じる…。

はあ…はあ…もっと痛みをくれてもいい、いじめられてもいい…僕

は妹が好きだ…はあ…はあ…はあ…。

毎日毎晩^{まいにちまいばん}管理されていたい、命令されていたいんだ…はあ…はあ…。

ああっ…ああ…ああ…もっと…変態を見るような目で、僕を見つめて欲しい…ああ…ああ…ああ…はあ…。

僕は妹が好きだ…ペットにされたい…ダメにされたい…はあ…はあ…犯して欲しい、犯して欲しい犯して欲しい…はあ…はあ…はあ…僕をむちゃくちゃにして欲しいんだ…。

〈シコシコ音・チェンジ〉

あっ…ああ…ああ…ああ…ああ…ああ…あああ…はあ…はあ…。

おしっこを飲ませて欲しい…顔面に騎乗されて…はあ…はあ…ああっ…ああっ…ああ…濡れた妹のおまんこを…舐めまくりたい…はあ…はあ…はあ…はあ…。

何でも言うことを聞くから…金玉をつぶされてもいい…ああっ。

狂わせて？…狂わせて狂わせて狂わせて？

〈シコシコ音・チェンジ〉

ああっ…ああっ…ああっ…ああっ…ああっ…ああっ…ああっ…ああっ…ああっ…。

びゅるびゅる^{あふ}溢れ出した先走りが、僕の太ももまで^た垂れて…ペニス
が最大限に^{さいだいげん}勃^たってる…はあ…はあ…んっ…ああ…このままアナルに
指を突っ込まれたら…僕はイってしまうかもしれない…。

〈グボ、グジュリ…〉

うっ…んっ…ああっ…。

ああっ…ああっ…ああっ、ああっ、ああっ、ああっ、ああっ、ああ
っ、あああっ気持ちいい。

出ちゃう…^も漏れちゃう^も漏れちゃう…うう…ああっ…精液びゅびゅっ
と…発射しちゃう。

〈シコシコ音・チェンジ〉

んう…ああっ、ああっ、ああっ、ああっ、ああっ、ああっ、ああっ、
ああっ、ああっ、ああっ、ああっ、ああっ、あああっ出るうう。

イクイクイクイクイクイクイクイクイクいくうううう一つ。

んあっ、あっ、ああ…。

[妹]：

んふふふ。

^{いきお}勢いよくびゅびゅ〜っと、お出しになりましたね？ お兄様。素

敵ですよ？

また明日^{あした}からも愛玩^{あいがん}してさしあげますので…。

しっかり『溜^ためて』おいてくださいね？ ふふっ。

[僕]：

体の細胞の一粒一粒^{いちつぶいちつぶ}までも、悦^{よろこ}びに満ち溢^{あふ}れてゆく…。

受け入れられたのだ。

僕は妹に管理されている、こんなに幸せなことはない。

[妹メイド]：

さあ、これで朗読はおしまいですよ？

楽しんで頂けましたか？

最後に ^{いもうと}妹 ^{わたし}メイドの私から、ご主人様がぐっすりとお眠りになれ

ますように、安眠薬^{あんみんやく}をお出ししておきますね？

お口をア〜ンと、^{ひら}開いてください？

いきますよ〜？

ぷっ、ぷっ、ぷっ！

はい、ごっくん♪

では…。

おやすみなさいませ、ご主人様。

おわり